

協働通信

都留文科大 地域交流研究センターのサテライトが地域と大学の橋渡しをします！

昨年4月に、「都留市まちづくり交流センター」内に都留文科大 地域交流研究センターのサテライト(分室)が設置されました。開設から1年が経過しましたが、地域交流研究センターやサテライトのことについて、もっと多くの方々に知ってほしいと思います。

そこで今回は、地域交流研究センターの役割やサテライトの機能、今後の可能性などについて、地域交流研究センター長の杉本光司教授にお話をいただきました。

「都留市まちづくり交流センターへのサテライト設置に寄せて」

都留文科大には、文学部の中に5つの学科と多くの附属機関があります。その中でも、地域交流研究センター(以下、センターと記載)は、学科の枠を越え、地域との交流や研究活動を支援するために設立された機関で、昨年度には開設10年目を迎えました。これまでも市民の方々とともに、様々な活動や研究に学生や教員が取り組んでいます。昨年4月に都留市文化会館が「都留市まちづくり交流センター」として整備さ

▽都留市まちづくり市民活動支援センター
都留市中央3-8-1
都留市まちづくり交流センター
(旧文化会館)1階
▽開館
火～日(祝日除)
8:30～17:15
▽問い合わせ先
mail: shien@city.tsuru.yamanashi.jp
☎(43)1321
FAX(43)1322

れるにあたり、地域の方々から大学をより身近に感じてほしい、更に深く知っていただくことや交流促進のための新しい取り組みとして、センターのサテライトを設置しました。

センターには都留文科大の特色を生かした地域に根差す活動の柱として、「フィールド・ミュージアム部門」、「発達援助部門※」、そして、「暮らしと仕事部門」という3つの部門を設置しています。そのほかに、出会いと交流の場をつくる活動として、「地域交流センター通信」の発行や、地域のニーズに応える地域貢献活動(市民公開講座、子ども公開講座、文大名画座など)、本学的知資源を生かした地域交流プロジェクト(田んぼクラブ、谷二ラボ、特産品研究など)を行っています。

そして、これら多彩な取り組みをつなぐキーワードとして「地域」があります。センターの知名度はまだまだ低く、十分活用されていないのが現状ですが、サテライト開設後は、新たな分野での学生ボランティア募集、地域の学習会への講師派遣、公民館や社会福祉協議会との連携事業などの要望が寄せられています。

このサテライト設置を機に、センターと地域がこれまで以上に連携を深めることにより、活気あふれるまちづくり活動のお役に立てることを願っています。

います。
※発達援助部門：学生アシスタント・ティーチヤー(SAT)事業や、困難をかかえる子どもの相談支援などを、保護者、教師、行政、福祉・医療の専門家と連携・協力しながら行い、地域で育つ子どもたちの成長・発達を援助する活動をしています。



■学生アシスタント・ティーチヤー (SAT) 事業にて子どもたちに学習の指導をしています。



■『フィールド・ノート』編集部の皆さん。「都留の自然と人との交流」をテーマに情報発信をしています。



■都留文科大 地域交流研究センター職員 佐藤理恵

地域のお知らせ

私は、今年の4月から「都留市まちづくり交流センター」内の地域交流研究センターのサテライトで働いています。都留文科大と地域をつなぎ、双方の強みを生かしたまちづくりに貢献できるように頑張っていきたいと思っています。学生ボランティアの募集や、多様な主体との連携事業などに関するご要望がありましたら、お気軽に私までご相談ください。

なお、地域交流研究センターの活動については、市役所やまちづくり交流センターのロビーに備えてある『地域交流センター通信』により詳しく書かれているので、ぜひご覧になってください。

谷村地域
夢実現ひろば
「寺めぐり」深泉院
新築本堂を参拝し寺の歴史を学ぼう。

日時 6月26日(木)13時～15時30分
※13時にまちづくり交流センター集合

乗り物 お仲間同士で乗り合わせ
行き先 深泉院(下谷1-3-1)
問合先 ☎(43)3225(鈴木)